

残留応力の発生メカニズムから低減化法まで具体的に示唆

# プラスチック成形品の強度・変形の長期予測法

日時  
2018年 12月8日 (木)  
10:30 ~ 16:30

会場 産業科学システムズ会議室 (東京都千代田区富士見1-5-1)

講師 株式会社SMS 代表取締役 新保 實氏  
金沢工業大学名誉教授 工学博士  
(専門) 材料力学, 粘弾性学, プラスチック材料, 他,

## 受講料

1名 45,000円+税  
2名以上1名 42,000円+税

## 案内図



飯田橋駅下車 各徒歩約5分  
JR中央線 (緩行線)  
地下鉄東西線 (A5出口)  
地下鉄有楽町線・南北線 (A4・B2a出口)  
都営地下鉄大江戸線 (A4出口)

## <お申込要項>

- 参加ご希望の方は、HP・E-mail・FAX電話、何れかにてお申込ください。
- お申込に際し、社名・部署名・受講者名住所・連絡先 (TEL・FAX・E-mail) をお知らせください。
- お申込次第、受講票・請求書等を発送します。受講料のお支払は銀行振込・当日持参のいずれかでお願いします。
- 受講料は講座後のお支払いも対応致します。(個人申込除く)
- 開催日前14日以降のキャンセルは受けできません。
- 受講者数が開催基準定員に満たない場合は中止になります。

## プログラム

- 残留応力の発生を理解するための基礎知識
  - 粘弾性特性・熱粘弾性特性とは
  - 粘弾性特性・熱粘弾性特性の利用方法
  - 粘弾性に伴う特異現象 (クリ-プ挙動, 緩和挙動)
- プラスチックの力学を理解するための基礎知識
  - プラスチックの応力とひずみ
  - 粘弾性挙動と粘弾性モデル
  - 応力-ひずみ関係式 (構成方程式)・応力-ひずみ関係式の誘導方法
- 熱粘弾性挙動による残留応力の発生メカニズム
  - 残留応力の発生要因の分類
  - 冷却過程で生じる残留応力の発生メカニズム
  - 硬化過程で生じる残留応力のメカニズム
  - GCP (ガスカウンタ-プレッシャー-)による残留応力の低減化法
- 時間-温度換算則とその解釈
  - 時間-温度換算則の基礎概念
  - 粘弾性挙動のマスタ-曲線の作成方法
  - 時間-温度移動因子 (ア-レニウス型, WLF型)
- 粘弾性挙動のマスタ-曲線の活用方法
  - マスタ-曲線を用いたクリ-プ変形の長期予測法
  - マスタ-曲線を用いた残留応力開放に伴う変形の長期予測法
  - マスタ-曲線を用いたCFRPの変形, 強度の経時的変化の予測方法
  - その他, 事象への応用例

Solution and Consulting / 質疑応答

お申込・お問合せは

主催 ISS 産業科学システムズ  
<http://www.ebrain-j.jp/>

TEL (03)3264-5635 FAX (03)3264-5675  
E-mail: education@ebrain-j.com

申込書 FAXは 03-3264-5675

講座参加申込書 プラスチック成形品の強度・変形の長期予測法

セミナーコード

1101-181213

太枠内をご記入の上FAX (03-3264-5675) してください。

2018/12/13 ISS

社名	所在地	〒	電話	( )
No.	所属部課 (正式名称)	氏名	E-mail アドレス	-
				( )
			FAX	-
窓口部署			お支払予定	当日ご持参 銀行振り込み

この講座をお知りになった媒体を○で囲んでください パンフ はがき Eメール ホームページ 検索サイト( ) その他